

小学六年
適性検査 D
 解答と解説

1

問一	ア
	×
	イ
	×
	ウ
	○
	エ
	×

問三【例】	と	第
	で	一
	、	次
	出	べ
	生	ビ
	数	ー
	が	ブ
	増	ー
	え	ム
	た	の
	人	た
	ち	が
	親	に
	な	っ
	た	こ

問四【例】	な	て	男	(選んだ資料)
	る	お	性	
	人	り	、	イ
	の	、	女	
	数	生	性	イ
	の	ま	共	
	方	れ	に	イ
	が	て	日	
	少	く	本	イ
	な	る	人	
	く	子	の	イ
	な	ど	平	
	っ	も	均	イ
	て	の	寿	
	き	数	命	イ
	た	よ	は	
	か	り	年	イ
	ら	も	々	
	。〇	亡	の	イ
		く	び	

問五	イ ↓
	エ ↓
	ア ↓
	ウ

問六【例】	以	え	降	小
	降	て	は	学
	は	い	標	校
	ほ	る	準	数
	ぼ	の	規	は
	横	で	模	年
	ば	、	よ	々
	い	小	り	減
	で	学	も	っ
	あ	校	学	て
	る	の	級	い
	こ	教	数	る
	と	員	が	が
	が	数	多	、
	わ	が	い	1
	か	2	小	9
	る	0	学	9
	。〇	0	校	8
		0	が	年
		年	増	以

2

【例】	
ど	
の	日
よ	本
う	の
な	学
も	校
の	は
に	、
な	成
る	績
の	に
か	よ
見	っ
え	て
や	自
す	分
い	の
が	将
、	来
成	が

20 80 60 20

60 40 20

20

問															
場	じ	学	き	あ	り	を		だ	こ	会	さ	成	と	げ	績
所	て	校	合	る	あ	高	私	け	と	に	せ	績	が	さ	が
だ	コ	と	う	。	え	め	に	追	が	出	る	に	あ	に	よ
と	ミ	は	た	と	る	る	と	い	で	る	こ	関	る	、	い
私	ユ	、	め	こ	こ	場	っ	続	き	と	と	係	。	将	か
は	ニ	家	、	ろ	と	所	て	け	る	き	が	な	そ	来	悪
思	ケ	の	言	が	が	だ	学	て	の	に	よ	く	れ	の	い
う	ー	中	業	、	多	。	校	し	か	、	い	、	に	可	か
。	シ	で	の	学	く	家	は	ま	正	自	と	子	対	能	に
	ヨ	は	や	校	、	族	コ	う	確	分	思	ど	し	性	よ
	ン	経	り	で	会	で	ミ	こ	に	が	わ	も	て	が	っ
	能	験	と	は	話	は	ユ	と	わ	本	れ	を	ア	判	て
	力	で	り	家	を	言	ニ	が	か	当	て	ほ	メ	断	、
	を	き	が	族	省	わ	ケ	あ	ら	は	い	め	リ	さ	実
	高	な	重	以	略	な	ー	る	な	ど	る	て	カ	れ	際
	め	い	要	外	す	く	シ	。	い	れ	。	自	の	て	よ
	て	こ	と	の	る	て	ヨ		ま	く	だ	信	学	し	り
	く	と	な	人	こ	も	ン		ま	ら	か	を	校	ま	も
	れ	を	る	と	と	分	能		、	い	ら	つ	は	う	お
	る	通	。	向	が	か	力		夢	の	社	け	、	こ	お

350

300

200

100

(配点)

- ① 問一、問二……各3点
- 問三……5点
- 問四……6点
- 問五……4点
- 問六……8点

② 50点
計100点

【解説】

① 日本の人口に関する問題

日本の人口に関する問題です。現在の日本の人口はおよそ1億2600万人となっており、2008年の1億2800万人から徐々に減少してきています。これには出生数、出生率の低下が関係しており、いわゆる少子化とよばれるものです。

少子化になり、人口が減少してくると、社会での働き手が減り、国際的な競争力や経済力を維持していくことが難しくなっています。さらに日本では高齢化という現象もみられます。これは医療の発達や生活の改善などにより平均寿命が延びたこともあって、世界でもトップクラスの平均寿命の高さをほこります。

生まれる子供の数が少なく、人口全体の高齢化割合が増えていくことを少子高齢化といいます。少子高齢化の問題としては高齢者を支える制度を維持する難しさがあります。高齢者の年金や医療費は主に労働力人口と呼ばれる世代がおさめる税金などでまかっています。

高齢者の数が増える一方、少子化によって、これから労働力人口が減っていくということは、少ない人数で多くの高齢者を支えることを意味しており、そのことが日本の財政を圧迫する要因となっています。この対策をどのようにしていくのかをどこかの世代が考えるのではなく、日本という国のこれからを見据え、全世代が考えていく必要があります。

問一 B1 情報を獲得する 比較 推論

日本の出生数の移り変わりを読み取る問題です。アは、一番出生数が少ないのは2019年になるので誤りです。

イは1947年から1949年の第一次ベビーブーム後しばらくは減少しますが、第二次ベビーブームのときに増加しています。そのため「ずっと前年を下回りし続けている」が誤りです。

ウはグラフ中で最も多いときで約270万人、2013年では約100万人ですので、半分以下となり正解です。

エは1966年に150万人を下回っていることがあるので誤りです。1966年は暦の表示などでも使われる十千十二支の組み合わせで丙午とよばれる年にあたり、この年に生まれる女性は幸せにはなれないという考えがあり、出産をひかえた人が多いことが大きな理由です。

オは前年より100万人以上減少した年はありませんので正解です。

問二 B1 情報を獲得する 比較 推論

日本の総人口と合計特殊出生率の移り変わりを読み取る問題です。まずは問題文の条件を見落とさないようにしましょう。アは右のたてじくと左のたてじくを読み違えています。そのため誤りとなります。

イは日本の合計特殊出生率は大きくは減少傾向ですが、年単位でみていくと、前年よりも上昇していることもありますので誤りです。

ウは正しいです。

エはアと同様に右のたてじくと左のたてじくを読み違えていますので誤りです。

問三 B1 情報を獲得する 理由 推論 具体・抽象

第1次ベビーブームの20年以上後に第2次ベビーブームが起きたのは、第1次ベビーブームで生まれた子どもが親になったタイミングだからです。ところが第3次ベビーブームはおきていません。これは社会状況や考え方に大きな変化が起こっているからです。そして、その傾向は続いており、それが少子化とよばれる状況になっています。

この問題では、①第1次ベビーブームの子どもが第2次ベビーブームのときの親となっていて同等の内容が書かれているかどうか、②①の内容に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、③表記や表現に誤りがないかどうかを中心にしています。

問四 **B1** 情報を獲得する 理由 具体・抽象 推論

資料2を見ると、同じ数の人口を維持するために必要な合計特殊出生率である2.1人は、1970年代前半以降はずっと下回っています。ところが総人口は増え続けています。人口は生まれる人の数と亡くなる人の数の差で変化することに気づければ、資料としてはイを選び、説明することができます。この問題では、①正しい資料を選択できているかどうか、②資料をもとに正しい理由が書かれているかどうか、③②の内容に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、④表記や表現に誤りがないかどうかを中心にしています。

問五 **B1** 情報を獲得する 比較 推論

これまでの会話や資料を参考にしながら人口ピラミッドを時系列で並べかえる問題です。第1次ベビーブーム、第2次ベビーブーム、少子化に注目して考えていくと、答えが導き出せます。

どこがどの話に一致しているのかをふり返りながら答えを確認してみよう。

問六 **B2** 情報を獲得する 関係づけ 理由 推論

資料3から、公立小学校の数が年々減っていることと、標準規模以下の学級数の小学校が減り、標準規模以上の学級数の小学校数が増えていることがわかります。また資料4から、公立小学校の教員数が1988年から1999年までは減っていることから、公立小学校は1校につき標準規模の学級数に満たない小学校は統合や廃校になり、その地域の小学生たちが周りの小学校に転校して1校当たりの学級数が増えていることが考えられます。この問題では、①資料3、資料4から、小学校数と教員数の関係についてわかることが書かれているかどうか、②①の内容に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、③表記や表現に誤りがないかどうかを中心にしています。

問 **2** 自分の意見を述べる問題

C2 情報を獲得する 比較 具体・抽象 関係づけ 推論

筆者は、日本の学校と社会のつながりを「学校も、社会でできごとを実際以上に大きく見せているのではないか、と思う」「学校という世界にいと、成績がよいか悪いかによって、実際よりもおおげさに、将来の可能性が判断されてしまうことがあった」と述べています。次に、アメリカの学校と社会のつながりについては「将来の成功についても、成績などあまり関係なく、夢を思い描いているような傾向さえあるのです。たぶん、子どもをほめて自信をつけさせることがアメリカの学校で

はいいことだと信じられている」、「本当はかないそうもない夢でも、その夢をつぶさないであげようという大人たちの配慮がはたらいっている」、「社会に出るときに、自分が本当はどれくらいのことのできるのか正確にわからないまま、夢だけ追い続けてしまう若者たちが出てきて、いろいろ仕事を変えたり、学校にもどってはまたやめたいといった試行錯誤を繰り返すことも少なくありません」と述べています。これらの内容をもとに、日本とアメリカの学校と社会のつながりの違いを第一段落にまとめて書きましょう。

第二段落は、あなたにとって学校はどのような場所かを書きます。学校は勉強を教えてもらう場所でもありますが、それ以外でも生活面などいろいろと学べる場所でもあります。ふだんの学校生活から、今まで自分がどのようなことをしているのかを思い起こし、具体的に説明するとよいでしょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落について

- ① 日本の学校と社会のつながりについて書かれているか
- ② アメリカの学校と社会のつながりについて書かれているか
- ③ ①や②に過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

第二段落について

- ④ あなたにとって学校はどんな場所か書かれているか
- ⑤ ④の理由が書かれているか
- ⑥ ④や⑤に過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

全体について

- ⑦ 段落が問題の指示に従って分けられているか

- ⑧ 答案用紙の使い方が正しいか
- ⑨ 誤字・脱字・送り仮名・仮名遣いの誤りがないか
- ⑩ 字数制限が守られているか